

敍任

明治十七年八月四日
外務少書記官從六位勳六等 島田 胤剛
二等書院步兵中尉從六位勳六等 小野田元燕
兼任內務少書記官
司法權少書記官正七位 橫田 國臣
兼任參事院員外議官補 宮原 廉
任福井縣收稅長 福井縣一等屬

時事新報

日本ニ鐵道ハ無用ナリ

米國ニウヨクノ通信者トクトル、シームونس君日本ノ鐵道事業ヲ論スルノ一書ヲ草シテ我社ニ寄セラル我輩コレヲ一讀スルニ其全体ノ論旨ト云ヒ其局處ノ事實ト云ヒ我輩ノ感服セザル所甚ク多ク大抵ハ昔我輩ノ持説ト正シク相反對スルモノナリト雖モ我輩ガ其論ヲ勞チモ憚ラズシテコレヲ本日ノ報紙ニ掲載セラルハ抑モ亦説アルナリ蓋シ鐵道ハ文明ノ必要具荷クモ社會ノ進歩ヲ希望スル限リハ國ニ鐵道ナカレバカザラズ天下與論ノ許ス所ニシテ我日本國ノモ近年漸ク茲ニ見ル所アリ兎ニ角ニ國內鐵道ノ便利先ツ十分ナラザレバ社會全般ノ進歩ヲ謀ルノ工風ナレトテ人心ノ向フ處漸ク鐵道ニ傾キ目下尙ホ實際經歷ノ不十分ナルニモ拘ハラズ全國到處トシテ鐵道ノ論ヲラザルハナク今更ニ此信用ヲ回スコトハ到底望ノ外ナルベキ有様ナリ斯ノ如ク鐵道ノ議論全國ニ流行ノ折柄ナレバ其論旨ノ如何ニ拘ハラズ唯其鐵道論タルノ一事ニ免テ我輩敢テコレヲ世ニ公ニシ讀者ナシテ鐵道論ノ表裏左右殘限ナク討究シテ懐ナカラシメ我輩又我輩ノ意見ヲ附記シテ傍讀者ノ注意ヲ喚バント欲スルナリ

土地ヲ漸次ニ買拂ヒ其實得金ノ利益ヲ大ナルニ在ルナルベシ故ノ米國ノ諸鐵道會社ガ自家ノ機關タル諸新聞紙ヲ假リテ頻リニ其線路沿道地方に遺利多キヲ吹聴シ人ヲテ貨殖ノ慾火自カラ制スルヲ能ハズ相視ヒテ其地方ニ移住セシメントスルガ如キ亦以テ鐵道會社ノ利益ノ在ル所ヲ知ルニ足ルベシ而シテ又通信者ノ所謂既開地方ノ鐵道ハ概シテ失敗スト云フハ事ノ性質上ニ於テ人民富庶ノ地方ニ鐵道ヲ布設シ其運搬スル荷物モ多ク乘客モ多キニ其利益却テ未開地方ノモノニ劣ルト云フノ理萬々アルベカラザレハ斯ル地方ニハ尋常ノ資本ヲ下シテ利益アルベキガタメニ隨テ政府ヨリ人爲ノ保護ヲ與ヘザルノミナラズ他ノ線路ト競争シテ專賣ノ利ヲ占ムルヲ能ハズ十個ノ會社競争シテ二三ノ優等者ニ勝テ制セラレ他ノ七八ハ劣敗ノ損失ヲ蒙リタルコトアルガタメナラズ斯ノ如キハ則チ其土地柄ガ既開ナルヲ以テ鐵道ニ利益ナキニ非ズ鐵道ガ其地方ニ競争スルヲ以テ却テ自ラ利ヲ失フモノニ過ギズ鐵道ハ人文ノ開ケテ地方ノ繁昌スル其割合ニ準シテ必要ヲ覺ヘ、其必要ナル割合ニ從テ利益モ亦多キモノナレバ唯三四線ニテ事足ル可キ處ニ六七線ヲ布設スルガ如キ競争ノ爲ニ時トシテ失敗者モ多キコトナラシモノ然ルニ我日本國ニ於テハ今日鐵道ノ競争ナキニモカ其專賣者サヘナキ有様ニシテ今後國中何レノ地方ニ布設スルモ當分ハ先ヅ以テ專賣ノ權ヲ失フノ恐アルベカラズ我輩ハ今日我國人ノ其專賣者タラントテ勸告スル最中ニシテ即チ通信書中ニモ「其以前一條鐵道もなかりし大都會の間ニ布設するも例外にて此場には最初より利益あるものに御座候」トアル其利益ヲ目的トスルモノナルニ通信者ハ既ニ自カラ其有利ヲ明言シナガラ又其無利ナルヲ強ヒテ頻リニ競争ノ失敗ヲ證シ專賣者ノ般論トシテ競争者ノ覆轍ヲ示ス、其狀恰モ餓者ヲ警ムルコ直ニ過食ノ禍ヲ以テスルニ異ナラズ過食云々ハ先ヅ餓ヲ適テ後ノ沙汰ナラズヤ我々日本人ハ今正ニ鐵道ノ便ヲ餓ルモノナリ其コレニ飽キ之ヲ過シテ競争ノ禍ヲ悟リ始メテ通信者ノ忠告ヲ要スルハ蓋シ今ヨリ數十年ノ後ヲ在ル可キノミ加之米國既開ノ地方ニ其失敗アリト云フモ得失ヲ平均スレバ概シテ有利ノ事業ニシテ商賣ノ尋常ナルモノト斷定セザルヲ得ズ試ニ米國ノ地圖ヲ披キテ鐵道ノ線網其疎密如何ヲ見ヨ東部人口ノ繁キ所ニハ密ニシテ西部人口ノ稀ナル地方ニハ甚ク疎ナリ蓋シ利ノ在ル所ハ鐵道ノ起ル所ニシテ米人思ナラズ利ヲ棄テ、損ニ就ク者ニアラズ既開ノ地方ニ鐵道ヲ布設シ又コレヲ布設シテ、アルハ既開地方ニ鐵道ノ利大ナルヲ証スルモノニシテ自然ノ道理上ニ於テ斯クナクハ叶ハザルコトナルベシコレヲ要スルニ未開地方ノ鐵道事業ハ沿道無代價ノ土地ガ追テ售價ヲ生スルヲ重モナル目的トシテコレヲ企ル稍チ投機ノ臭味アル事業ニシテ既開地方ノ鐵道事業ハ尋常商賣上ノ損益ヲ標準トシテ商利ヲ觀フモノナルベシ今此兩種ノ事業ガ米國ノ場合ニ於ケルハ一投機ノ商賣ニ利ヲ博シ一尋常

商賣上ノ競争ニ利ヲ失ヒシノ例アリトテ直チコレヲ取リテ我日本ノ鐵道事業全體論ノ可否ヲ決セントスルハ我輩聊カ其當ヲ失スルノ議論ナリト信スルナリ通信者ノ意ニ思ヘラク米國ハ其土地ノ廣キ日本ニ二三四倍ス而シテ其人口ハ五千萬ニ過キズ日本ヨリ多キコト僅カク千五百萬人内外ナリ斯ル人口稀少ノ國柄ナルガ故ニ社會ノ文明繁榮ニ必要映クベカラザラズ鐵道モ尙ホ尋常私立ノ事業ニ適セザル所アリ是ニ於テカ米國政府ハ未開無人ノ地方ニ向ヒテ鐵道ヲ布設スル者ニハ特別ノ保護ヲ與ヘテコレヲ獎勵セリ故ニ既開地方ノ獨立鐵道ハ失敗スル者アルモ未開地方ノ保護鐵道ハ失敗スル者甚ク少ナシ今日日本ハ土地狹クシテ人口繁ク如何ニ政府ガ鐵道會社ヲ保護セントスルモ線路ノ遺棄并ニ其左右一帶幅若干里ノ土地ヲ與フルヲ能ハズ蓋シ與ヘザルコトアラズ與フベキ土地ナキナリ既ニ政府ノ保護漸ク優渥ナルコト能ハズトスレバ鐵道ハ皆私立ノ事業トスルノ覺悟ナカレバカラズ然ルニ既開ノ地方ニ私立ノ鐵道事業ヲ企ルハ米國ニ失敗ノ例多キガ故ニ日本ニ於テモ慎テコレヲ避ケ斯ル事業ヲ企ルコトナカレト通信者ノ論理ハ斯ノ如シト雖モ若シモ我輩チシテ通信者ノ材料ヲ其儘ニ使用シテコレヲ斷案チ下サシメナバ左ノ如ク云フベシ日本ノ狹小ナル僅カク米國ノ二十三四分ノ一ニ相當シ其人口ノ夥多ナル米國ヨリ少ナキコト僅カク千五百萬内外ニ過ギズ斯ル人口繁庶ノ既開國ニ於テハ仮令其人民ノ富十分ナラズトスルモ鐵道ヲ布設シテ利ヲ見ザルノ恐ナシト是即チ適當ノ論理ニシテ我國情ノ實ニ違ハザルモノナラント信ス然ルニ日本ハ人口繁庶ノ既開國ニシテ隨テ荷物乘客ノ夥多ナル可キガ故ニ鐵道ヲ布設スルハ失敗ノ危險アラント云フハ我輩其理ノ在ル所ヲ見出スル能ハザルナリ (未完)

電報

八月三日龍動發 英國首相及會議の事に關して口演したる中に同會議は英佛其意見を異にしたるが爲め憂も同國の財政困難を整理せるの功難なしと述べたり
七月廿八日北京發 清廷にては新任佛國駐清公使許景澄に命じて曾國荃、陳寶琛と共に佛國との條約細目を草定する商議を與らしめたり○佛國の債金額の疑問確定せざる迄は新條約が就て何たる議論を發するとも肯せざる可し○西太后は目下清國の政是を議定する爲め宮中に總督衙門の特別總會を開きたり

雜報

御巡幸に御内決 去る明治十三年北海邊地方へ 聖駕の御巡幸に在りし後以年々元老、參事兩院の議官及諸官員を巡察使として各地方へ差遣はされ民情を觀察せしめ疾苦を訪問され絶へて御巡幸に御沙汰無りしが自今復舊し依り時々御巡幸遊はさるゝとの聖意にて未だ其地方は御確定遊されざるも去る明治十八年四月頃より御巡幸に在りし御

由て多分其方
○會議 昨日大出頭會議せり又官補以賜取中
○極方大瀧野
九時六分發の若賀地方へ赴き
○大久保議員
今は餘程手重なり
○轉任 元老院
今は時々散步
○渡邊檢査院員
若し本月二日
○覆着 芳川
澤陸軍少輔は本
したるよし
○司法官巡視
甲部巡視を命
長加納檢事の
出發したり右
谷檢事へ命せ
○小野田二等
田二等書院の
○向泰君 舊
を得て明後八
○縣官上京
縣大書記官村
○官廳電報
同大書記官白
を命せられ
○官廳電報
議官は賜取中
在中同少書記
書記官島田
たり○判事(大
栃木始審裁判
長官原藤氏以
長秋郡長吉田
する旨御渡され
太政官に於て
棄天城關縣下
書記官右御田
○學習院改章